

IMF サーベイ

サンティアゴ規範

政府系投資ファンドの行動規範は国境を越えた投資に有効——リップスキー筆頭副専務理事

- ・ 政府系投資ファンド（SWF）ワーキンググループが暫定合意
- ・ 自主的な行動規範・慣行の作成は SWF への理解を促進する
- ・ リップスキー筆頭副専務理事は、SWF は世界金融システムに有益な役割を果たしている
と指摘

国際通貨基金（IMF）のジョン・リップスキー筆頭副専務理事は、SWF の自主的な行動規範・慣行の提案は、投資受入国のための経済協力開発機構（OECD）の投資規範とともに、より効果的なクロスボーダー投資を可能にするグローバルな環境の構築に役立つと述べた。

リップスキー氏は、チリ財務省主催による 9 月 3 日のサンティアゴでのセミナーでスピーチを行った。9 月 1～2 日の会合では、26 の SWF の代表が、「行動規範・慣行に関する原則合意（GAPP）」の原案（別名サンティアゴ規範）について暫定合意に達したと述べた。GAPP は、SWF の適切な投資慣行、およびガバナンスとアカウンタビリティ（説明責任）の取り決めの指針となる自主的な枠組みである。

「GAPP は国境を越えた投資の自由な流れと、オープンで安定した金融システムの維持を後押ししようというものである」とリップスキー氏は述べた。「SWF は、これらの行動規範・慣行を受け入れることで周囲の懸念を払拭し、それによって SWF の投資に対する保護主義的圧力の高まり、および、国際資本移動に対する規制のリスクを軽減するのに役立つとみられる」。

世界金融システムに有益な役割

リップスキー筆頭副専務理事は、SWF が自国のみならず国際金融システムにとってますます重要になっていると強調し、これらのファンドが現在、政府の保有する外国資産の 4 分の 1 から 3 分の 1 を占めていると指摘した。「これらの資産はそれほど遠くない将来に外貨準備高を上回り、2013 年には 7 兆～11 兆ドルに達すると予想されている」。

またリップスキー氏は、ここ 1 年の先進国市場の金融不安では、SWF が資金を供給して「衝撃を緩衝する役割」を果たしたと高く評価したうえで、これは SWF の長期的な投資スタンス、流動性ニーズの低さ、それに主としてレバレッジをかけていないこと（unleveraged position）を反映していると述べた。さらに、SWF は、「十分な機能を果たしているオープンで流動性の高い市場を守ることの長期的利益」を明確に理解していると指摘した。

IMF サーベイ

しかし、投資受入国は、SWF の投資の目的が営利以外にもある可能性について懸念している。リップスキー氏は、こうした否定的な見方はすべての当事者にマイナスであるばかりか、グローバルな資本の効率的な流れを弱めることによって、世界の金融・通貨システムの安定を損ないかねないと指摘した。

こうしたなか、自主的な行動規範・慣行によって「透明性が強化」されれば、SWF の出資国、受入国の双方にメリットになると思われる。GAPP は SWF に対する理解を促進し、新たに設立されたファンドは他のファンドの経験を活かすことができよう、とリップスキー氏は述べた。

GAPP の次のステップ

「政府系投資ファンド国際ワーキンググループ (IWG)」のハマド・アル・スウェイディ共同議長は 9 月 2 日、サンティアゴ会合の最後にスピーチを行い、次のステップは、IWG の各メンバーが今後数週間内にそれぞれの政府に GAPP を勧めることだと述べた。IWG はその後、10 月 11 日にワシントンで開催される IMF の政策諮問機関、国際通貨金融委員会 (IMFC) に GAPP を提出する予定である。GAPP はこの会合の後に公表される見通し。

IWG メンバーはまた、SWF の常任グループ設立を模索している。これは、必要に応じて GAPP に関わる作業を前進させるとともに、SWF の活動に影響を与える動きについて公的機関、受入国との対話を促すために必要との認識に立ってのことである。

まとめ役としての IMF

ワーキンググループは、IMF のハイメ・カルアナ顧問兼金融資本市場局長が共同議長を務め、IMF が同グループの事務局となっていた。

オーストラリアの SWF であるフューチャー・ファンド・ボード・オブ・ガーディアンズのディビッド・マレー代表は、IWG の作業のまとめ役でありコーディネーターである IMF の役割を高く評価した。「185 の加盟国を持つ IMF は、これらの国のマクロ経済政策と中央銀行の取り決め、また、一部の加盟国が先行して行ってきた作業に精通した唯一の国際機関であり、我々が GAPP をどう取りまとめればいいのかを理解するのに役立った」。

同代表は、「GAPP はあくまでも SWF の自主的文書である」と強調しながらも、「IMF はこの作業を導く助けとしてはいうまでもなく最高の国際機関である」と述べた。

本稿へのご意見はimfsurvey@imf.orgまで。

本稿は「IMFサーベイ」誌 (www.imf.org/imfsurvey) の記事の日本語訳。